

「緑が恋しい」

なぜか緑が恋しい。緑の中にいたい、と思う時がある。21年前の阪神・淡路大震災の時は、特にそうだった。倒壊した家々、解体されるビル、瓦礫のまちを毎日、歩いて仕事場に通った。肌を刺す乾いた空気。土ぼこりがまちを白く包み、六甲山がかすんで見えた。みんなマスクをして歩いている。厳しい日常に、疲労も蓄積しているのだろう、どの表情も陰しかった。

ある晴れた朝、仕事場に向かわずに、足が公園に向かった。クスノキ等木々の間に桜が枝を伸ばしている。よく見ると、小さなつぼみをつけていた。まだまだ固いが、あと1か月もすればピンクの花芽が膨らむはずだ。公園でボールを蹴る子供たちの声が弾んでいる。深呼吸をした。久しぶりに緑を胸に吸い込んだ気がした。

人は緑に包まれて暮らしていると、顔つきまで穏やかになる、と河合雅雄先生はいつておられる。

昔、南米のペルーに行ったことがある。当時、経済状況が悪化していて、首都リマは治安も悪くなっていた。そのせいだろうか、街行く人々の表情は陰しく、なぜか目が鋭いように感じられた。飛行機でリマからインカ帝国の首都だったクスコに飛び、鉄道とバスを乗り継いでマチュピチュに向かった。標高3000m。深い色をした緑の山が続く。その後は雪を頂く5000m級の山々が見下ろす。南米の屋根、アンデス山脈だ。途中で、路上に織物や手芸品を広げる女性、家畜をゆっくり移動させる少年たち、背中に赤ちゃんを背負って子守をしている少女らに出会った。身なりは質素だが、彼らは例外なく人懐っこくて、穏やかな表情をしていた。大自然に包まれて暮らす彼らは、明らかにリマの人たちとは違って見えた。

霊長類の特徴は、生まれてから死ぬまで、緑に包まれて暮らしているということだ、と河合先生は書いておられる。



平成27年度兵庫県緑化作品コンクール入選者 1席

(橋本 紗矢香 兵庫県立姫路工業高等学校 1年) (応募時)

霊長類は6500万年もの昔から濃密な緑の中で生を送ってきた。「われわれが緑を求め、緑がない所では心が落ち着かずいららし、緑の中でこそ初めて安心感に浸れるのは、遠い先祖から受け継いできた系統発生的な適応感覚によるものなのである」(「子どもと自然」岩波新書)と。

久方ぶりに公園を訪ねた。つぼみはまだ固かったが、サクラの木は大きくなり、幹は太く、枝はぐんと広がっていた。

公益社団法人兵庫県緑化推進協会運営協議会委員長
元神戸新聞論説委員長 上羽慶市

平成27年度緑化作品コンクールの結果

緑化思想の高揚を図るため、県下の小学校の児童並びに中学校及び高等学校の生徒を対象にコンクールを実施しました。

応募点数は、緑化ポスター原画の部1,898点、緑化標語の部938点、そのうち入選点数はポスター原画の部32点、標語の部24点でした。特に優秀な作品をご紹介します。

〈標語の部〉

小学生の部1席

加古川市立氷丘小学校

1年 山根 千鶴さん (応募時)

**「もりやきに かこまれやすらぐ
しぜんのかおり」**

中学生の部1席

加古川市立中部中学校

2年 池田 悠生さん (応募時)

**「育てよう
未来を守る 希望の芽」**

高校生の部1席

兵庫県立農業高等学校

3年 石塚 翔大さん (応募時)

**「つなげよう
未来につづく 緑の輪」**

国土緑化推進機構理事長賞



県コンクール上位作品を(公社)国土緑化推進機構が開催する全国コンクールに応募した結果、
井上 采音さんが入選しました。

小学生の部2席 (ポスター原画の部)

神戸市立本山第一小学校

2年 井上 采音さん (応募時)

〈ポスター原画の部〉

小学生の部1席



尼崎市立水堂小学校
5年 奥田 純優環さん
(応募時)

中学生の部1席



姫路市立広嶺中学校
3年 藤原 早希さん
(応募時)

高校生の部1席



兵庫県立姫路工業高等学校
1年 橋本 紗矢香さん
(応募時)

「緑の募金」にご協力をお願いします

緑の募金にご協力をお願いします。



森と緑は私たちの暮らしに限りない恵みをもたらし、豊かな地球環境を残してくれています。

このかけがえのない森と緑を守り育てていくために、家庭募金、学校募金、職場募金、街頭募金、団体募金、企業募金などの「緑の募金」を県下各地域で行っています。

ご寄付の方法

ご協力いただく募金は、金額の多少を問わず次の金融機関へ振り込みをお願いします。

● 郵便振込

郵便振込の場合、公益社団法人兵庫県緑化推進協会に直接お問い合わせ下さい。専用の払込取扱票用紙をお送り致します。

● 銀行振込

口座：三井住友銀行兵庫県庁出張所
普通 3198438 (振込手数料が必要)
名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

募金運動の期間

春季 3月1日～ 5月31日
秋季 9月1日～ 10月31日

公益社団法人 **兵庫県緑化推進協会** 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL 078 (341) 4070 FAX 078 (341) 4071
URL : <http://www.hyogo-green.net/>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



緑の募金事業成果発表会を開催しました

平成28年2月7日(日)、緑の募金が地域の緑化にどのように活用されているのかを情報提供する「緑の募金事業成果発表会」を開催しました。

当日は休日にもかかわらず、企業や森林ボランティア団体のみなさんをはじめ県下各地から120名の方にご参加いただきました。

発表会は「これからの里山林を考える」と題して、兵庫県立大学名誉教授の服部保先生の基調講演から始まりました。

今後の里山放置林管理は、地域特性に応じて、高木林管理だけでなく、低木林として管理するなど目標林の多様化を図らなければならないとの内容で、参加者の方はメモを取るなど熱心に耳を傾けていました。

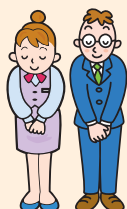
基調講演後は、募金を活用して森林整備や緑化活動等を実施した活動団体6団体の代表者から活動成果を発表をしていただきました。

それぞれの発表では、活動を始めた経緯、活動の現状、募金の活用状況、今後の展望などをPower Pointを使って簡潔明瞭にお話いただき、各団体の発表後の質疑応答では、自分たちの活動で困っていることの対応方法などについて発表者に質問が投げかけられていました。

発表終了後は、神戸親和女子大学客員教授で、当協会運営協議会委員長を務めていただいております上羽慶市先生より講評をいただき、閉会となりました。

今回の発表会では、緑の募金が地域の緑化に大いに役立っていること、そして世界的規模で環境保全の重要性が叫ばれる中、森林整備や地域の緑化をさらに進めるために、「緑の募金」の取り組みを拡大していくことが重要であることなどを県民の皆さまに情報提供しました。

これからも「緑の募金」にご協力いただいた皆さまに募金の成果を目に見える形でお伝えしていきますので、「緑の募金」への一層のご協力をお願いします。



服部保先生



上羽慶市先生



地域のコミュニティの一躍を担う活動

“よみがえれ 里山”を合い言葉に! 姫路市「林田町里山会」の取り組み紹介

姫路市林田町

活動区域は、姫路市林田町の県道485号の中部、林谷地区北部に位置しており、舞子池・奥池・立会池・裏池に囲まれたなだらかな丘陵地帯で、コナラ、クヌギ、赤松等の樹木混交林です。

冬には、池にコハクチョウやカモ類が飛来し、やすらぎの場としても親しまれています。

平成19年4月に地域住民の交流拠点として、姫路市はやしだ交流センター「ゆたりん」がオープンしたのを契機に、周辺の豊かな自然（里山）を活かそうと、平成21年3月に地域住民が立ち上がり「林田町里山会」を発足させました。

平成25年に「兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会」に加入、27年に「ひょうご森づくり活動賞」を受賞しました。

里山会が発足以降、様々な活動を展開し現在に至っています。

健康増進、体力向上をめざして 里山ハイキング開催

区域内は、雑木林や竹林の整備（2.5ha）とともに約1kmのなだらかな遊歩道も整備し、地域住民はもとより、隣接する「ゆたりん」の利用客にも気軽に利用されています。



里山林を活用した自然食 シイタケづくりの挑戦

里山林内には、多くのコナラ、クヌギの樹木が存在しています。

里山会ではこのコナラ等を利用することとし、伐採して玉切り、シイタケの植菌、伏せ込み作業を行った結果、2年目からシイタケが発生するようになりました。

収穫したシイタケは「ゆたりん」農産物直売所で販売し、収益金は里山会の活動資金として活用しています。



未来を担う子供たちの自然との ふれあい実体験

里山会では、毎年、ひょうご森のインストラクター会の指導により、地域の子供たちを対象に自然観察、野外学習を開催しています。

シイタケの性能、樹木の種類、植物の生態等の説明を受けるたびに子供たちは興味津々、質問も活発なようです。

また、木工教室は親子で椅子や本立て等を製作、親子のきずながこれまで以上に深まったように感じています。

花の咲く里山への衣替え

荒地だった里山林を整備して、春はヤマザクラやツツジの花々が咲き、秋はモミジの紅葉、冬はサザンカの花が楽しめる丘にしようと、四季折々の風情が楽しめるように植樹活動も行っています。



これからの里山を誰が管理し、 見守っていくかが課題

これからの里山の管理は、これまで里山で学び育った子供たちに夢を託すしかありませんが、こころ豊かな人間形成、自然を大切にするこころを育む子供たちの育成に里山会の取り組みが手助けになるように、今後も活動が続けていきたいと思っています。